

《各県コーナー》

茨城県マスコット ハッスル黄門



茨城県の災害について

……………茨城県土木部河川課災害グループ

1. はじめに

茨城県は関東地方の北東に位置し、東は太平洋を臨み、北に福島県、西に栃木県、南に埼玉県と千葉県に接しています。

北部は阿武隈山地の南端にあたり、標高500～900メートル級の山地が連なっています。支脈は栃木県沿いに南に延び、県中央部に名峰筑波山を形成しています。

本県の面積は約6,095平方キロメートルで、全国第24位であり、そのうち山地が県総面積の約1/3を占め、北部から北西部にかけて連なり、平野は県総面積の約2/3を占め、南部に広がっています。東方は約190キロメートルに及ぶ海岸が連続しています。

可住地面積は全国第4位で、約3,981平方キロメートルと県土の約65パーセントを占めており、

道路実延長は56,219キロメートルで、北海道に次いで第2位の延長を有しています。

2. 河川の概要

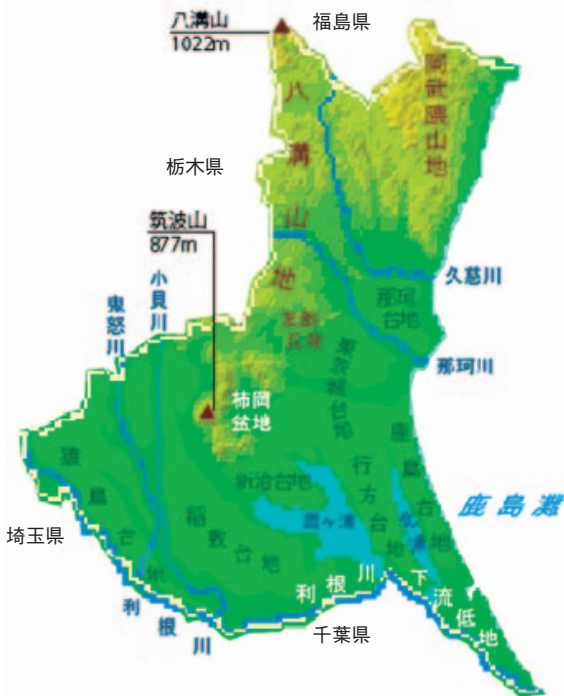
本県の河川は、北部山地で久慈川、那珂川水系、これら山地に水源を発する二級河川があります。南西部の河川は全て利根川水系であり、ほぼ県境沿いに利根川があり、鬼怒川、小貝川がこれに注いでいます。

一級河川は、利根川、那珂川及び久慈川の3水系で199河川、延長約1,892キロメートル、二級河川は28河川、延長約190キロメートルとなっています。

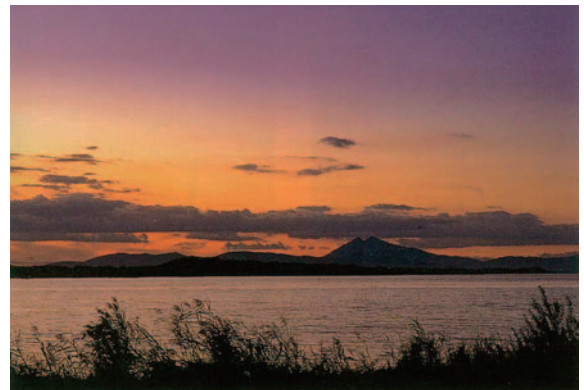
北部地域の河川の大部分は、山間部を流れる比較的急流で、美しい自然と清らかな水質が維持された河川です。

南西部地域の河川は、広大な田園地帯をゆったりと流下する緩流河川が大半を占めています。この地域には、沖積層の厚い軟弱地盤帯が各所があり、施設の基礎処理に多くの費用と期間を要する河川が少なくありません。

利根川水系の下流には、日本第2位の面積を有する霞ヶ浦、北浦を中心とした水郷地帯になっており、水政の縮図となっています。



茨城県の概要



夕日に映える霞ヶ浦と筑波山

《各県コーナー》

3. 茨城県の災害

本県における過去の災害では、直轄河川においては、那珂川の氾濫や小貝川の決壊、県管理河川においては、桜川の決壊等がありました。特に平成10年の台風4号による那珂川の氾濫では、県都である水戸市街地で浸水被害が発生したほか、橋梁の流出など多くの公共土木施設が被災しました。また、上流部の栃木県で牛舎が流出したことにより、牛が流れてくる事態も発生しました。

過去10年間の災害状況は、年平均約56件（東日本大震災を除く）と、比較的災害の発生は少ない県であります。

しかし、記憶に新しいところでは、平成23年の東日本大震災があります。平成23年は、査定件数1,894箇所（地震災1,798箇所、風水害96箇所）査定決定額約32,208百万円（地震災31,489百万円、風水害719百万円）となっております。



漂着して救助された黒牛（ひたちなか市）

本県では希にみる大災害でありましたが、公共土木施設の復旧は、ほぼ完了しておりますが、県全体の復興は道半ばであります。



JR 常磐線橋梁 水戸大橋付近より上流を望む（平常時）



東日本大震災による津波（大洗港：大洗町）



平成10年8月台風4号 洪水時



東日本大震災 液状化による被災
（国道245号：日立市内）

《各県コーナー》

平成25年の災害は、本県に接近した9月の台風18号及び10月の台風26号により、公共土木施設が被災し、計2回の災害査定を実施しました。主に河川災で、増水による河岸浸食等が多く見受けられました。被災終息後、概ね2カ月で査定を実施し、県と市町村合わせて41箇所、約513百万円の採択を受けました。



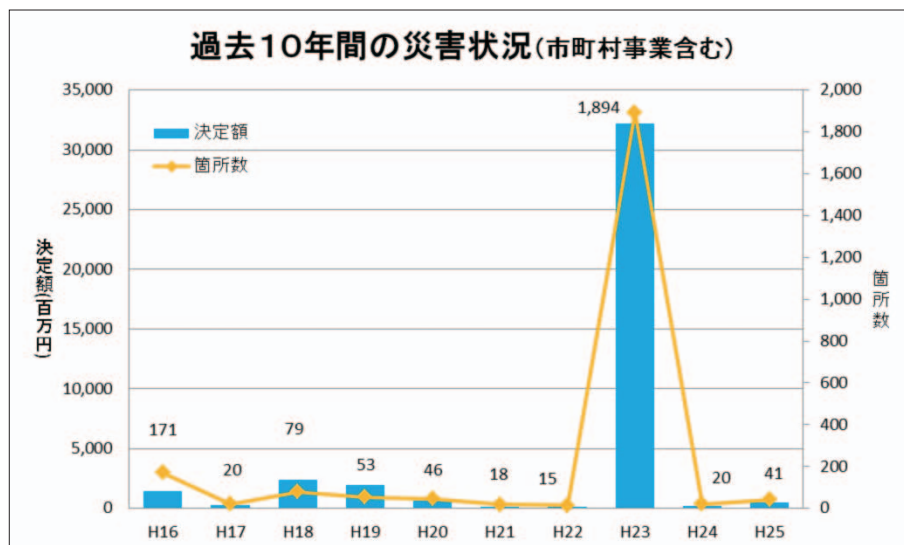
平成25年発生災害 堤防浸食箇所（桜川）



平成25年発生災害 堤防浸食箇所（久慈川）



平成25年発生災害 堤防決壊箇所（清明川）



《各県コーナー》

4. 災害復旧に関する研修

団塊世代の退職により、技術者不足や技術力不足が囁かされているなか、災害復旧においても技術の伝承が必要であり、東日本大震災後の翌年には、茨城県河川・道路災害実務要領（案）を作成し、昨年は2回の災害に関する研修を実施しました。

一つ目は、県職員及び市町村職員を対象に、災害復旧実務講習会を開催しました。この講習会では、茨城県河川・道路災害実務要領（案）の説明を行うとともに、国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官を講師として招き、災害査定の留意点や採択事例について講義を頂きました。

二つ目は、（一財）茨城県建設技術公社と共催の建設技術（災害復旧）研修会で、実際に査定を受検した現場をモデルに、河川課職員が査定官、立会官役に扮し、模擬査定を行いました。対象は市町村の実務経験が1年以上3年未満の土木関係職員とし、査定の流れを実践することで、復旧事業に必要な基礎知識を習得させることを目的としております。参加者からは、実践的な研修で業務の遂行に役に立っているなど、好評を頂いております。

また、平成24年度は関東地方整備局の災害査定研修が茨城県内で開催され、合同で研修を行い、実際に現地へ赴き模擬査定を実施し、大変有意義な研修となりました。



茨城県災害復旧実務講習会の様子



平成25年度 建設技術研修会の様子



平成24年度 関東地方整備局との合同研修の様子

5. おわりに

本県は昨年の都道府県魅力度ランキングで最下位という結果でしたが、気候は比較的温暖であり、災害の少ない県であります。

春は日本三名園の一つ『偕楽園』の梅祭り、夏は海水浴や湖沼を利用したマリンスポーツ、秋は阿武隈山地に属する花貫溪谷の紅葉、冬は日本三大名瀑の一つ『袋田の滝』の全面氷瀑等があり、季節毎の楽しみが満載です。

また、農業産出額が全国第2位で、漁業漁獲量も全国第5位となっており、農産物、海産物、畜産物共に食も豊富であります。

ぜひ一度来県し、本県を満喫していただければ、様々な魅力を楽しむことができますので、魅力度ランキングアップに一役かっただいただければ幸いです。

最後になりましたが、災害査定において、ご指導・ご支援をいただきました国土交通省並びに財務省の方々に紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。